

野ネズミ捕獲し調査



野ネズミを生け捕りにするため、木の根元に捕獲器を仕掛ける
さんと、篠山東雲高校自然科学部員のさん、顧問の
教諭＝丹波篠山市川原で

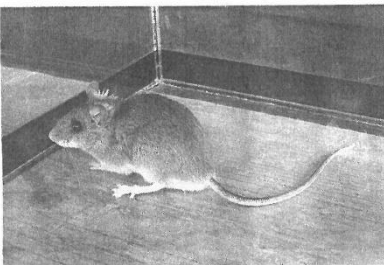
東雲高×県立大大学院生

「ささやまの森」舞台に

豊かな自然を数値化

篠山東雲高校自然科学部と兵庫県立大学の大学院生が、ささやまの森公園（川原）内で野ネズミの調査を行っている。6月からの本調査に向け、このほど、予備調査を実施。生息している複数の個所に、事前に仕掛けておいた捕獲器を確認して回り、アカネズミ1匹を捕獲した。同部は昨年度から同公園内に生息する生き物を調べており、「ささやまの森公園は市内屈指の豊かな自然を誇るエリアだと肌感覚では分かっているが、調査データをまとめて数値化して示したい」と意気込んでいる。

これまで丹波篠山市内では、野ネズミの本格的な調査は行われていないが、目撃例などから、生息している種として、アカネズミ、ヒメネズミ、ハタネズミ、カヤネズミ



予備調査で捕獲したアカネズミ
（教諭提供）

市。研究対象は野ネズミそのものではなく、それに寄生するノミ類。同公園のほか、六甲山、淡路島南部、氷ノ山などでも調査を行っている。さんに、川西市立東谷中出身の「ネズミは家の周りにいるものだと思うが、森にも暮らす

ミ、人家でよく目にするドブネズミ、クマネズミ、ハッカネズミなどが挙げられる。同調査は、兵庫丹波の森協会が同公園を舞台に昨年度から展開している「たんばユース躍動プロジェクト」の一環。高校生・社会人を対象に、丹波の森を見守る次世代チャレンジャーの育成を目的にした取り組みで、森を健全に持続していくために、森と動物と人が共生するための知恵や技術を学ぶ講座。調査を進めているのは、県立大学院生で環境人間学研究所2回生のさん（24）＝宝塚市。研究対象は野ネズミそのものではなく、それに寄生するノミ類。同公園のほか、六甲山、淡路島南部、氷ノ山などでも調査を行っている。さんに、川西市立東谷中出身の「ネズミは家の周りにいるものだと思うが、森にも暮らす

2025年4月27日

丹波新聞

ていることを初めて知った。調査を進めていくことで、どんな種類が見つかるか楽しみ。六甲山では未調査の部分が多い昆虫。どんなノミが、どのネズミに寄生しているのかなどの関係性や、地域的な種の構成、分布域などを調べ、修士論文にまとめたい」と話す。専門知識と技術を持つさんが、同高校近くの同公園で野ネズミの捕獲を行うことを聞きつけた同部。昨年度から、同プロジェクトに参加し、野鳥や水生生物を調べており、「今年度は調査対象を広げたい」と考えていたこともあって、さんの調査に参加・同行することにした。

予備調査では、▽水辺そば▽倒木そば▽木の根元▽茂みなど環境が異なる30カ所に事前に仕掛けておいた捕獲器を回収して回った。捕獲器は、「シャーマン・トラップ」と呼ばれる小型哺乳類を生け捕りにするための小さな箱わなを使用した。調査に立ち会った同部員のさん（22）年、川西市立東谷中出身は、「ネズミは家の周りにいるものだと思うが、森にも暮らす

ネズミがここでも見つかったら面白い」と期待している。本調査は6・9月の期間、毎月1回実施し、10月のまとめの会で、検証した調査内容を披露する。11月の県総合文化祭でも発表する計画。